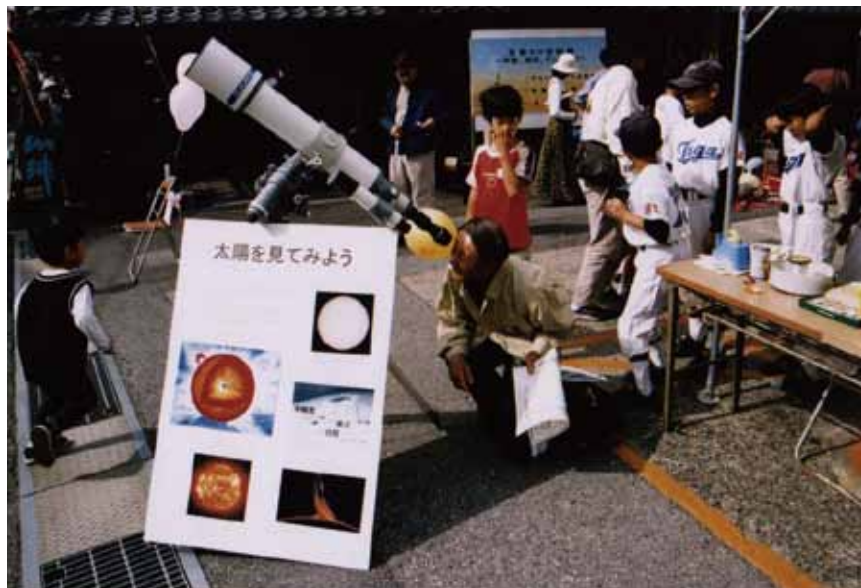


天文
教室

太陽をかんさつしよう!



日時 2014年3月16日(日)
14時~16時

参加費 300円(材料費)

場所 西堀榮三郎記念探検の殿堂

講師 高橋進 ダイニック・アストロパーク天究館 館長
天究館友の会、天究館星の会

対象 小学4年生以上
※小学3年生以下は保護者同伴

定員 30名

申込み メール、Faxで
【名前、年令、連絡先】を明記の上、
お申込みください。

締切り 3/9(日) **持ち物** はさみ、のり

**申込み
問合せ**

西堀榮三郎記念探検の殿堂
滋賀県東近江市横溝町419
Fax0749-45-3556 TEL0749-45-0011
tanken@city.higashiomi.shiga.jp

今回の天文教室の内容

私たちが照らしてくれる太陽とはどんな星でしょうか。太陽について知るとともに、太陽からの光を調べることで太陽の理解をさらに深めたいと思います。

1. お話「太陽ってどんな星」
2. 太陽の光を調べてみよう
(太陽分光器を工作し、太陽の光を観察します)
3. 太陽を観察しよう
(望遠鏡で太陽黒点や炎(プロミネンス)を観察します)

太陽を観察しよう

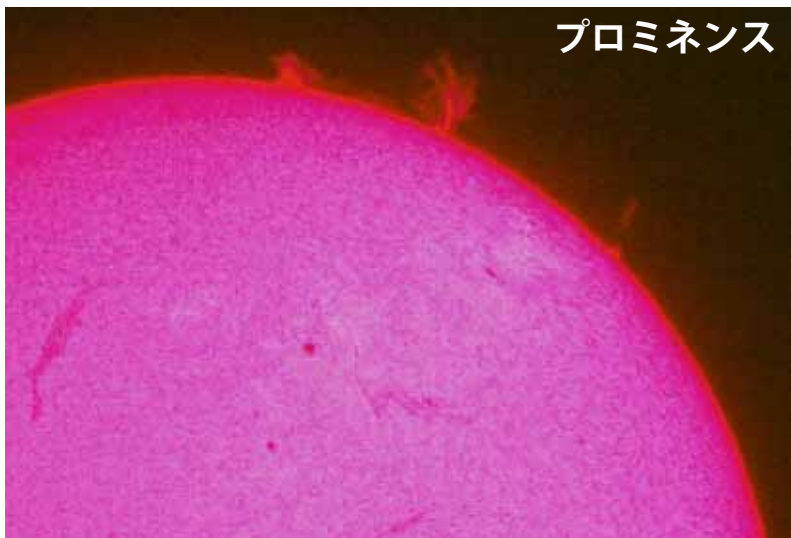
太陽は私たちが照らしてくれて、明るくしてくれるだけでなく、その熱により暖かくしてくれたり、植物を育ててくれたりさまざまなことでも私たちが助けてくれています。この太陽を初めてきちんと観察したのは今から四〇〇年前のイタリアの科学者ガリレオ・ガリレイです。ガリレオは自分で作った天体望遠鏡で太陽黒点を観察して、太陽が自転していることなどを明らかにしました。

太陽の表面はおよそ六〇〇〇度の温度ですが、黒点のところは四〇〇〇度くらいで、温度が低い分だけ黒く見えます。黒点が発生する原因は強い磁場だと言われており、強い磁力線が太陽表面から飛び出したり戻ったりするところが黒点になります。この黒点がどれくらい発生するかで太陽活動のよすががわかります。太陽活動はおよそ11年ほどで増減を繰り返して

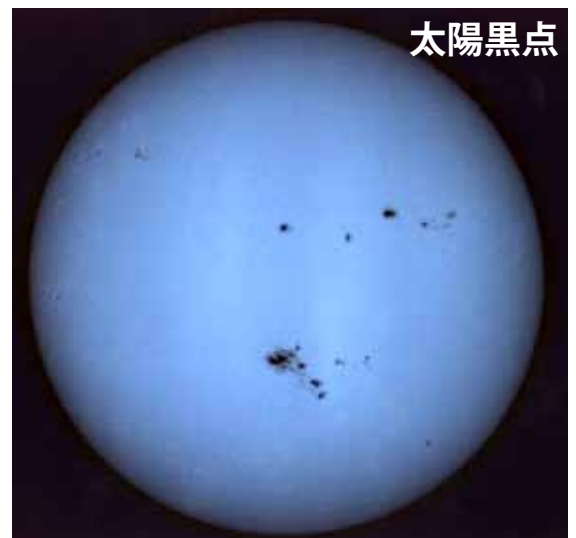
いますが、昨年くらいがもっとも活発な年で、今年もまだたくさんの黒点が見られています。

黒点のところからは炎が立ち上っていて、プロミネンス(紅炎)と呼ばれます。エイチアルファ光(H α 光)という赤い光で観察すると、太陽のふちから燃え上がるプロミネンスを見ることがができます。見た感じでは小さなヒゲのようなものですが、実際には地球の数倍から数十倍もある巨大な炎です。

太陽を望遠鏡で観察するのは危険がともない、場合によっては目が見えなくなることもあります。そのため太陽の観察は太陽観察になれた人と一緒にしないとイケません。3月16日には太陽観察にくわしい人たちが何台もの望遠鏡を持って来てくれます。この機会にぜひ太陽の世界をお楽しみください。



プロミネンス



太陽黒点